様式第１号

岡集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成２１年１０月２５日
修正日：平成２２年　８月１８日

市町村名	鳥取市	組織名	岡営農組合

1　地区の範囲
鳥取市用瀬町安蔵 岡地区

2　地区の概要

水田面積	１０．２　ｈａ
主な水田栽培作目	水　稲　、　野　菜　、大　豆
農家数	１８　戸
認定農業者数	０　経営体
地域水田農業ビジョンの担い手数	０　経営体

3　組織化の目標（設立時期の目標は、事業実施年度内とする。）
・設立時期（規約等の制定日）【平成１９年１月１日】

	組織形態（該当形態に○）	加入農家数
【現状】前年度実績（２０年度）	・未組織　・共同利用型 ・作業受託型　・協業経営型	１８　戸
【目標】事業開始翌年度（２２年度）	・共同利用型　・作業受託型 ・協業経営型	１８　戸

4　集積率（経営、機械の共同利用と作業受託）の目標

項　目	【現状】	【目標】
集積面積　①	３．１　ｈａ	５．９　ｈａ
うち経営及び作業受託　②	３．１　ｈａ	５．９　ｈａ
対象水田面積　Ａ	１０．２　ｈａ	１０．２　ｈａ
集積率　①/Ａ	３０．４　％	※③　５７．９　％
うち経営及び作業受託　②/Ａ	３０．４　％	※④　５７．９　％

注１）※③の集積率の目標は採択要件。50％超が必要。
２）※④の経営及び作業受託による集積率の目標が、50％超の場合は事業費上限10,000千円（新設組織の場合は事業費上限20,000千円）、50％以下の場合は事業費上限5,000千円。
３）集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。

Ⅰ 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1　担い手の明確化及び水田利用集積目標

岡集落は、水田１０．２ｈａ、農家１８戸で水稲作付が６４％で、転作作物は主に野菜、一部で大豆を栽培しています。一部は個人間で経営又は作業受委託を行っているが、将来的には耕作者の高齢化が進行し、数年後には耕作できない農家の増加が見込まれている。

集落営農組合を利用し、作業受委託により水稲生産コストの低減を図るとともに、定年退職者を中心にオペレーターの育成を進め、将来的には耕作できなくなった農家の受け皿組織としての体制整備を目指す。また、今後は他集落での受託作業があれば積極的に対応したい。

2　水田作付計画、生産調整の方針・具体策

水稲については、コシヒカリの栽培面積が９０％を占めており、作業が集中するため、ひとめぼれの作付を増やして、作期分散を図る。

また、転作作物として奨励作物である大豆、そばの作付けを増産することを目指します。しかし、土地が棚田であるため団地化は難しい現状であり、作物の品質向上のための湿田対策として水路等の改修を行う。

3　農業用機械施設の効率利用

平成１８年、平成２１年にそれぞれトラクター１台、平成１９年には乾燥機、籾摺機１台を導入。なお、田植機及びコンバインについては個人からの借り上げにより対応している。

現在、個人の保有コンバインは、籾袋用の旧型であり、作業効率が悪いうえ高齢化のため作業負担が大きくなっている。これらを解消するため、平成２１年にコンバイン（グレンタンク付）を購入したことで、刈り取りの面積の増加によるほか、自家米の消費に対するこだわりも強くなり、集積の乾燥作業も増大が見込まれます。現在の乾燥機１台では作業効率が悪く、一連の作業委託に支障が生じるため、追加購入することで、作業効率の向上や作業負担の軽減化及び水稲一連の作業受委託を一層進めるとともに、耕作できない農家の受け皿として作業受託体制を整備する。

今後、農機具の購入については、個人及び数戸で共同利用している耐用年数未経過の機械が数台あるため、当面は現状を維持するが、他の作業機械も含め個人購入はしないことを申し合わせている。

また、水稲の乾燥調整ついては、一部ＪＡが整備している機械施設を活用する計画でしたが、自分たちの農地は自分たちで守る基本姿勢ですべての作業を組合で対応します。大豆の播種、収穫、乾燥調整等については、一部ＪＡが整備している機械施設を活用する。

既存の個人所有の乾燥機及びカントリー施設との整合性と過剰投資の防止について

1．個人所有の乾燥機との整合性

個々で所有している乾燥機２台は耐用年数が過ぎるなど機能が古いため乾燥調整に時間と水分調整に不具合を生じているほか、利用者は兼業農家が多く土・日の晴天日に集中し、個人分を優先するため競合し利用しにくい状況にある。また、組合保有の1台（24石）は、小容量（10袋程度）乾燥に長時間（約24h）を要し、非効率であるうえ高コストに付くほか、刈取品種・農家が異なる場合には１台で対応できない現状にある。

今後は、耕作放棄地の未然防止及び集団経営を目指し、集落営農の促進を図る観点から、個人及び数戸で共同利用している農機具は購入しないことを申し合わせているため、最新機能の乾燥機を購入することで作業効率の向上と生産コストの縮減を図り、より一層の受託作業の充実を図ります。

2．既存のライスセンター及びカントリーとの整合性

既存のライスセンター及びカントリーがあることは承知しており、利用しないといけないことも十分理解していますが、現在ライスセンターを利用しているのは3組合員（全量2、一部1）であり、組合員の実態及び意向を尊重しながら利用促進に努力してきました。

しかし、刈り取りは天候具合、銘柄等に左右されるため乾燥の日程調整が難しい状況であるうえ、カントリーへの運搬距離が遠く時間的な見地からライスセンター及びカントリーの利用を拒む農家が多く、組合での乾燥調整を強く望んでいます。

また、自分たちで作った米は自分たちで食べるなど自家米の消費にこだわる農家が強く、自分たちの農地は自分たちで守り、自分たちで消費することで自給率の向上及びコスト縮減につながることから、ライスセンター及びカントリーはあえて利用しない考えです。

従って、現在の乾燥機1台では農家の要望に応えられないうえ、作業効率が悪いため、追加購入し、一連の作業委託に支障がないようにしたい。

3．過剰投資への解消

上記の整合性を図り一連の作業受委託の定着化が進めば、法人化への転換も視野に入れた、会計の一元化を目指し、次の通り経営多角化の方針と具体策を考えました。

＜経営多角化の方針・具体策＞

① 米の栽培環境（清流の水、寒暖差）をアピールし、品質及び食味に自信と確信を持った米として、当面は組合員の知人、友人等に販売し、最終的にはブランド化、差別化による独自の販売経路の開拓を進めます。

② 今後は組合員の高齢化・後継者不在等により委託者不在が発生することが想定され、受託作業では対応しきれなくなるため、今後法人化を検討する。

③ 法人化後は、経営の安定化・継続性が求められるため、特別栽培米、減農薬栽培等による差別化・ブランドを確立し独自販路開拓等積極的な販売に努める。

4 経営多角化の方針・具体策【経営多角化支援メニューの実施組織は必ず記入】
特になし。

Ⅱ 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金 額（円）	導入予定年月	本事業による導入機械に○
コンバイン	3条刈（ｸﾞﾚﾝﾀﾝｸ付）	1台	4,669,350円	平成21年12月	○
乾燥機	2反用（17石）	1台	1,258,950円	平成22年9月	○